

令和5年度 第1回浦川原区地域協議会 次第

と き 令和5年4月25日(火) 18時00分から

ところ 浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

1 開 会 (:)

○会議の成立確認(成立出席委員数6人) 出席委員数____人 欠席委員数____人

○会議録の内容確認者の指名 確認委員の氏名 春日清美 委員

2 報 告

(1) 会長報告

(2) 委員報告

- ・令和5年度第1回浦川原区公共交通懇話会の開催結果について

(3) 市からの報告

- ・3区中学校統合の進捗状況について

3 協 議

- ・令和5年度活動計画について(資料1)

4 その他

- ・各区(板倉・三和・有田・柿崎・中郷・和田)における「地域活性化の方向性」(資料2)
- ・上越市第7次総合計画(本編・ダイジェスト版)(当日配付)

5 次回の会議日程

- ・令和5年度第2回地域協議会

日時：令和5年 月 日 () 時 分から

会場：_____

6 閉 会 (:)

令和 5 年度活動計画について

1 自主的審議

令和 4 年度実績	令和 5 年度計画
<p>A グループ</p> <p>○地域団体の意見交換について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うらがわらスポーツクラブ、浦川原商工会、町内会長連絡協議会の 3 団体を集めて意見交換を実施する予定としていたが、それぞれの団体から「区の課題」について意見聴取を行うこととし、実施した。 ・集約した意見の多くは、地域協議会として課題解決に向けて実行に移すことが難しいことから、地域団体との意見交換は必要に応じて実施することとした。 <p>○文化の伝承について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子・高齢化に伴って途絶えつつある多くの伝統文化のうち、当区にとって代表的な「月影雅楽、飯室神楽、保倉川太鼓」を優先的に守るべき文化と捉え、保存・継承を手助けする事業について、令和 6 年度の予算編成に向けて検討していくこととした。 ・2 月末現在で、各団体に事業イメージを伝える中で、事業計画案の見直しの必要性を感じ、まずは 3 団体そろっての発表の機会を設けたり、子どもたちへのアプローチとして体験会を開催したり、PR 用の動画をつくることを念頭に、団体との意見交換を継続している。 ・3 月 14 日 第 9 回グループワーク開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・4 月 17 日 第 10 回グループワーク開催
<p>B グループ</p> <p>○中山間地域における公共交通の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月 26 日 勉強会を開催し、市交通政策課から、区内の公共交通の現状と市の施策（予約型乗合バスの状況や住民の「互助による輸送」等に対する補助制度）について説明を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5 月 11 日 第 11 回グループワーク開催

<ul style="list-style-type: none"> ・7月11日・25日、8月10日 「ほくほく線の利活用」と「住民主導型の区内の送迎事業」を議題に協議し、区内アンケートによりニーズを把握した上で、令和5年度予算に反映することを確認した。 ・8月25日 区内全戸にアンケートを実施し、32人から回答を得た。 ・9月28日 アンケート結果を基に令和5年度の予算化に向けて検討し、翌29日の第6回地域協議会に予算化を諮ったが、安塚区と牧区で予約型コミュニティバスの実証運行が行われており、令和6年度から浦川原区で運行できる可能性もあることから、令和5年度の予算化は見送ることとなった。 ・12月21日 「ほくほく線の利用促進及び利便性向上について」、Bグループ5人の連名で提案書を提出し、第9回地域協議会で自主的審議事項とすることを決定した。 ・1月27日 第10回地域協議会で意見書の内容について協議し、意見書として提出することを決定。2月2日付けで意見書を市に提出した。 ・2月22日 第11回地域協議会において、意見書に対する回答について市交通政策課から報告を受けた。 ・3月23日 第10回グループワーク開催 <p>○大浦安の学校の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の在り方については継続協議とした。 	
---	--

2 「地域活性化の方向性」の作成

令和4年度実績	令和5年度計画
<p>○11月29日 第8回地域協議会で、現在進めている自主的審議事項の検討内容から事務局が作成例として提示した案を基に作成することを確認した。今後、自主的審議事項の検討と合わせて内容を精査していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月を目途に作成する。

3 出張地域協議会

地域協議会の活動を理解していただくとともに、地域住民の意見を収集するため、出張地域協議会を開催し、会議後に地域住民との意見交換を実施する。

令和4年度実績	令和5年度計画
<p>○10月20日(木) 中保倉地区(中猪子田集会所)</p> <p>○参加者 地域住民5人</p> <p>○意見交換の内容</p> <p>地域活動支援事業を活用してきた団体から、支援に対するお礼と現在の活動状況の報告があったほか、コロナ禍で町内会行事が中止になる中で、地域の寄り合いの機会を工夫して設けている様子を知ることができた。</p>	<p>(令和4年度第12回地域協議会での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末広地区で10月頃に実施してはどうか。

4 中学生との意見交換会

次代を担う浦川原中学校の生徒が浦川原区の地域資源を学び、地域に対する愛着や地域を大切に思う心を育むとともに、地域資源の活用や後世への継承に向けて、地域協議会委員との意見交換を踏まえ、中学生自らができることを地域協議会へ提案する。

また、地域協議会委員は、中学生の生の声や考えを聴き認識を深めるとともに、中学生からの提案を受け、その実現に向けて支援することにより、地域課題を解決するための方策を探る。

令和4年度実績	令和5年度計画
<p>○1年生(13人)を対象とし、「ふるさと浦川原の伝統文化」をテーマに、「月影雅楽、飯室神楽、保倉川太鼓」について学習した。</p> <p>○実行委員 村松副会長、池田副会長、春日委員、北澤正彦委員、宮川委員</p> <p>○主な実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月8日 現地学習・体験学習 ・12月20日 中学生によるまとめの発表と地域協議会委員との意見交換 ・3月9日 中学生が学習先の3団体に向けた提案を発表 	<p>(令和4年度第12回地域協議会での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦川原中学校として最後の年であり、今までどおり続けた方がよい。 ・今まで1年生を対象に行ってきたが、最後の年であることから、内容を精査し、中学生全員や1~2年生など範囲を広めてもいいのではないか。

5 研修会の開催

委員の資質向上を図るとともに、更なる見識を深めることを目的とする。

浦川原区地域協議会委員のみによる研修会だけでなく、共通認識を共有することで、効果的なまちづくりが進められるよう町内会長連絡協議会や諸団体、他区の地域協議会との合同開催や先進地視察も可能。

また、大島・浦川原・安塚区地域協議会合同の研修会を3区持ち回りで開催しており、令和5年度は当区の担当。

令和4年度実績	令和5年度計画
○浦川原区地域協議会委員研修会 11月8日（火） ・テーマ：地域自治推進プロジェクトについて ・講師：自治・地域振興課 職員 ・参加者：10人	（令和4年度第12回地域協議会での意見） ・もっと早い時期に開催した方がよい。 ・提案があれば4/17までに事務局に連絡。
○大浦安合同研修会 2月17日（金） ・テーマ：中山間地域のまちづくりに関して地域協議会に期待すること ・講師：小田基史 副市長 ・会場：安塚コミュニティプラザ ・参加委員：21人（うち浦川原区7人）	○大浦安合同研修会 浦川原区担当 （令和4年度第12回地域協議会での意見） ・もっと早い時期に開催した方がよい。 ・提案があれば4/17までに事務局に連絡。

6 地域協議会だよりの発行

浦川原区地域協議会の活動内容について、地域住民への報告と周知のため、地域協議会の活動内容を掲載した広報紙である地域協議会だよりを発行する。

令和4年度実績	令和5年度計画
○7月25日（第53号） 1班担当：藤田会長、春日委員、北澤正彦委員、五井野委員 ○2月25日（第54号） 2班担当：池田副会長、小野委員、北澤誠委員、宮川委員 ○3月25日（第55号） 3班担当：村松副会長、相澤委員、赤川委員、杉田委員	

7 地域活動支援事業の審査等

令和4年度実績	令和5年度計画
<p>○5月21日(土) 提案事業審査</p> <ul style="list-style-type: none">・審査結果 採択6事業、不採択なし補助額 4,545千円 <p>※追加募集なし</p> <p>○10月20日 事業の進捗状況報告(事務局)</p> <p>○3月25日(土) 成果報告会</p>	

板倉区における「地域活性化の方向性」

《板倉区の地域活性化に向けて》

板倉区の豊かな自然や文化、長い歴史をいかして、そこで暮らす人が誇りや愛着をもち、訪れる人が楽しめる地域づくりを目指します。

○構成要素

・米や蕎麦などの農作物の美味しさや魅力の発信

・豊かな自然環境や歴史文化をいかした企画

・美しい景観や里山風景を守る

・子どもたちに板倉を愛する心を育てる

・冬期間の安心安全な暮らしの推進

・「板倉に住みたい」「板倉に住み続けたい」と思えるような、
地域づくり

三和区における「地域活性化の方向性」

《三和区の地域活性化に向けて》

三和区は、上越市の中央に位置し、広大な田園や里山、ため池など豊かな自然環境に恵まれています。こうした美しい景観や地域資源を大切にしながら、今後予定されている上沼道三和 IC（本郷）の開通を見据え、住民一人一人が様々な活動に参画し、心豊かで安全・安心なまちづくりを進めていきます。

○構成要素

- | |
|---|
| ① 自然（谷内池やオニバス等）や田園の環境保全と情報発信 |
| ② 三和区の宝（林富永邸、大間城址、北代ぶどう園等）を巡る通年観光の企画及びイベント等の実施 |
| ③ 安全・安心でおいしい米産地として付加価値の高い地域ブランドの形成と、味噌や地酒、栗などの産品を活用した特産品の開発 |
| ④ 新たな「地域づくりリーダー」や「地域活動コーディネーター」の育成と社会教育の推進 |
| ⑤ 地域活性化に寄与する空き家の活用と移住者への支援 |

○各団体と地域協議会との意見交換＜主な意見＞

◆三和西部工業団地組合（令和3年8月26日）

- ・1年に2回地域住民との交流（団地内清掃活動・納涼会）を実施している
- ・さんわ桜の陣の開催について、工業団地としてもバックアップしていきたい
- ・三和区住民に対する団地内企業の認知度が低い
- ・団地内企業に三和区の若者が勤める方法はないか

◆青少年育成会議（令和3年11月24日）

- ・青少年育成会議の活動は楽しく、人と人とのつながりを大切にしている
- ・様々な活動で体が動く心も動く
- ・人生の先輩として何を後輩に残せるか。そこが決まらないと三和は元気がでない
- ・育成会議のメンバーは、当初充て職だったが、声掛けで人数を増やしていった
- ・コーディネーターは、校区の偏りを無くして後継者を見つけていきたい
- ・イベントの企画は大人が主体であったが、今は中学生が企画し、郷土を良くしようという気持ちが伝わってくる
- ・さんわ祭りや体育祭の企画立案も、小・中学生が参画すべきである
- ・いくら良いことをしても、地域住民が知らなければ、それで終わってしまう
- ・地域づくりやまちづくりは、ボトムアップで自ら動いて取り組むものである
- ・声掛けができる環境を整えば、世代を超えた交流も可能となる
- ・表に出て活動をすることも大切だが、自分ができる範囲の中で裏方として何ができるのか、受け身でなく自分で考えて行動していくことが大切である

◆町内会長協議会 1回目（令和4年4月7日） ※意見交換

- ・町内に空き家が増えて、建物の倒壊が心配である
- ・少子高齢化により、町内会活動が停滞している
- ・町内会役員のなり手がいない
- ・町内会長がいなくなる時代が来たら、行政はどのように対応するのか
- ・地域活動の負担が大きく、行事に参加しない人や区外に移住する人もいる
- ・移住者と地域住民との意思疎通に支障が生じている
- ・農業の後継者が不足している
- ・山間部の農地が耕作放棄地となり荒廃している
- ・冬場に一人住まいの高齢者が安心して入居できる場所がほしい

◆NPO法人 三和区振興会（令和4年8月18日）

- ・地域活性化の方向性（案）について、構成要素の取組①～⑤は、記載内容のレベルを合わせて、それぞれで具体策が出せるかが勝負になる（振興会）
- ・三和区振興会の財源確保について、区内の団体や企業からも振興会の活動に賛同いただき、会員を増やす取組も有効だと思う（地域協議会）

◆町内会長協議会 2回目（令和4年11月24日） ※方向性（案）に対する意見

- ・米産地として、農業者を育てていくような取組も入れてほしい
- ・三和区地域福祉活動計画とタイアップしながら、取組を進めてほしい

○三和区の主な課題（まとめ）

- ・三和区の活性化に尽力できるリーダーの発掘
- ・まちづくりリーダーの育成
- ・三和区ネットワーク会議における主要団体との連携の強化
- ・少子高齢化に伴う高齢者世帯及び空き家の増加抑制
- ・空き家の活用
- ・世代間の交流の場及び子どもと高齢者の居場所づくり
- ・三和区の名所・旧跡や自然を活用した賑わいの場づくりと積極的な情報発信
- ・三和の素晴らしい景観を形成している溜池や丘陵地の保全活動
- ・集落機能の維持と強化
- ・高齢化に伴う農用地等の保全と持続可能な営農活動

有田区における「地域活性化の方向性」

《有田区の地域活性化に向けて》

有田区の自然、利便性、さかんな産業などの恵まれた環境をいかして、あらゆる世代が住みやすい地域としてあり続けます。

○構成要素

- | |
|------------------------------|
| ・ 住んでいて心地よい地域であるための環境維持と防災対策 |
| ・ 学校コミュニティを中心としたイベントや活動の推進 |
| ・ カルチャーセンターなど地域拠点の利活用 |
| ・ あらゆる世代・国籍の人々の支え合いと交流促進 |
| ・ 地域で大事にしている行事・歴史・文化の継承と魅力発信 |

柿崎区における「地域活性化の方向性」

《柿崎区の地域活性化に向けて》

柿崎区の米山と日本海にいだかれた魅力のまちという強み（個性・特性）をいかして、三大薬師「米山」のブランド力を高め、地域を活性化します。

○構成要素

1 発信	・米山・田んぼ・山からの景観、史跡などの魅力を「フォトコンテンツ」等、SNSを活用して広く発信します。
2 交流・イベント	・米山の豊かな自然を生かして、キャンプ、グランピング、サウナなど若者と交流できるイベントを企画します。 ・伝統を大切に、「米山・柿崎」を掲げ、各地区のイベント、祭りなどの連携を推進します。
3 産業	・米山の豊かな水を生かした、山・里・海の地産品ブランド力を高め魅力をアピールします。
4 暮らし	・米山と海に囲まれた自然の中で、子育て環境の充実、空き家の活用などを図ることで移住・定住を促進します。
5 文化	・米山を核に史跡や伝統文化を発掘・継承し、広く発信するとともに郷土愛を育てます。
6 「米山・柿崎」ブランド化	・地域の活性化に取り組む旗印として「米山・柿崎」を掲げ、クラウドファンディング、企業の参加等を促進し、柿崎区の自治力を高めます。 ・米山・柿崎の親しみやすいロゴを作り、イベント・地産品に活用します。

中郷区における「地域活性化の方向性」

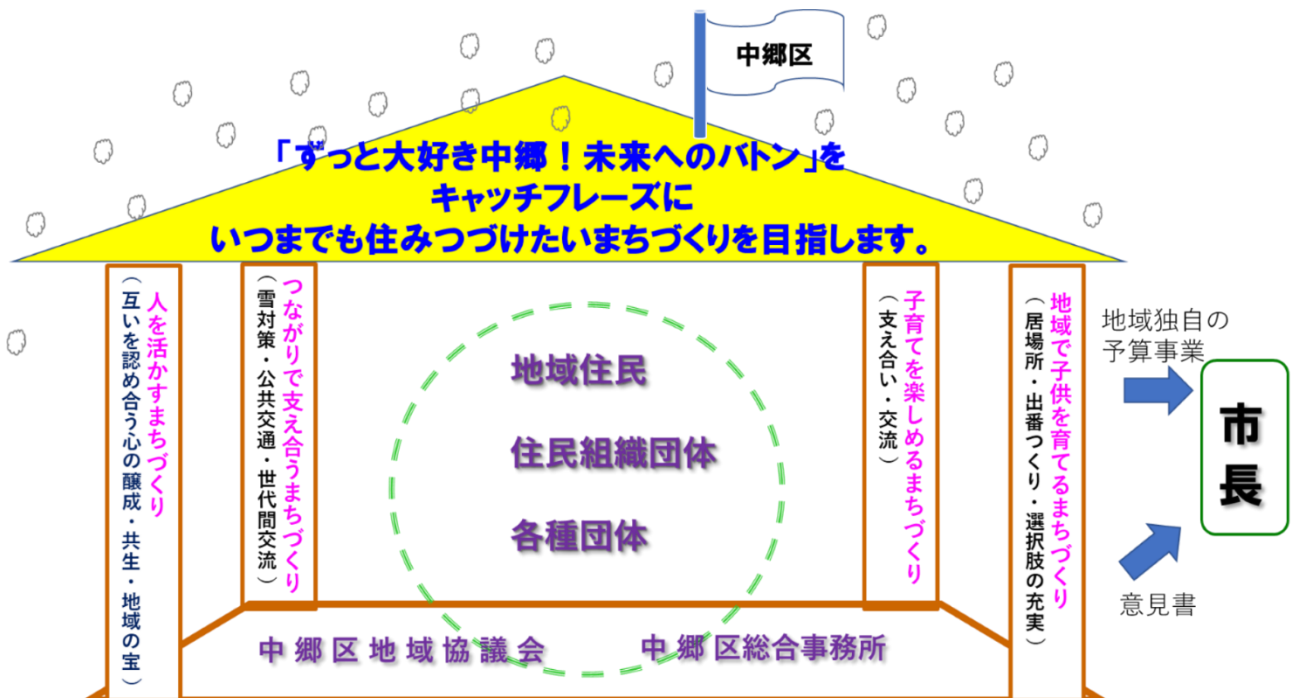
《中郷区の地域活性化に向けて》

「ずっと大好き中郷！未来へのバトン」をキャッチフレーズに、いつまでも住み続けたいまちづくりを目指します。

○構成要素

地域で子供を育てるまちづくり（居場所・出番づくり・選択肢の充実）
子育てを楽しめるまちづくり（支え合い・交流）
“つながり”で支え合うまちづくり（雪対策・公共交通・世代間交流）
人を活かすまちづくり（互いを認め合う心の醸成・共生・地域の宝）

＜中郷区地域活性化の方向性イメージ図＞



和田区における「地域活性化の方向性」

《和田区の地域活性化に向けて》

和田区は、上越地域のゲートウェイとしての特性、魅力ある歴史・文化と豊かな自然・農地を活かし、住みやすい、住みたい、訪れたい地域を目指します。

○構成要素

・ 交通の要衝としての上越妙高駅や情報通信の拠点を活かした地域振興
・ 吹上・釜蓋遺跡や地域の宝などの歴史・文化の発信、活用
・ 次世代を担う人材の育成とイベントの開催を通じた交流人口の拡大
・ 妙高山をはじめとする美しい景観・自然、豊かな農地等の環境保全、活用
・ 安心安全で、福祉の充実した暮らしやすい地域づくり